

令和3年度
障害者スポーツ推進プロジェクト
障害者スポーツ用具活用促進事業

成果報告書 (概要)

本事業では、障害者（児）のスポーツを通じた社会参加と共生社会の実現を目指すため、以下①から③を目標に障害者スポーツに参加するきっかけを提供し、参加継続を支援するための拠点を構築した。

内容 障害者スポーツの活動拠点の構築
障害者スポーツ体験会の実施

目標 ① 仲間と共に障害者スポーツを始め、楽しみ、競い合うことができる環境の整備
② 身体状況に応じた競技用車椅子や競技用義足の適合と活用の支援
③ 健康増進や二次障害予防に向けた支援の実施体制の構築

障害者スポーツの活動拠点の構築

地域に根付いたリハビリテーション病院を拠点とする

リハビリテーションに携わる部署には、障害者スポーツやレクリエーションを活用して機能回復や体力維持・向上を目的とした体育指導があり、病院に整備された体育館や100m走路、プールといった施設を用いたプログラムを実施している。



体育館



プール



グラウンド



100m走路



アーチェリー場



テニスコート

5競技の専用車椅子と競技用義足、児童用スポーツ車椅子を整備

- ・車いすバスケットボール (2台)
- ・車いすテニス (2台)
- ・バドミントン (2台)
- ・陸上：レーサー (2台) 義足 (4本)
- ・自転車 (ハンドサイクル) (2台)



バドミントン用車椅子



レーサー



競技用ハンドサイクル



スポーツ用義足

活動拠点

用具の整備

実施体制



神奈川リハビリテーション病院

多職種で横断的に連携をとるチーム (KPSF) が拠点の運営を担う

このチームは、2019年度と2020年度にスポーツ庁の事業である「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」を神奈川県から委託された際の実施体制である。

かながわ障害者スポーツ支援部門 Kanagawa Para-Sports Support Project (KPSF)

- ・医師
- ・看護師
- ・体育指導員
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・臨床心理士
- ・義肢装具士
- ・社会福祉士
- ・リハエンジニア
- ・研究員／事務員

障害者スポーツの体験会の実施

入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験

神奈川県リハビリテーション病院で、
車いすテニスやバドミントン、陸上、自転車競技の体験を実施

- 脊髄損傷者 2名
- 両下腿切断者 1名
- 大腿切断者 3名
- 視覚障害者 1名

地域在住で障害者スポーツに興味・関心 を持つ方を対象とした体験会

神奈川県リハビリテーション病院で、車いすバスケットボール、
車いすテニス、バドミントン、陸上、自転車競技の体験を実施

厚木市 荻野運動公園陸上競技場で、陸上競技の体験を実施

- 参加者（障害者） 23名
- 参加者（一般） 19名
- 医療従事者 49名



体育館での車いすバスケットボール体験（身体状況に応じた工夫）



体育館でのバドミントン競技体験



陸上競技場での陸上体験（スポーツ用義足）



スポーツ用義足の適合と評価、陸上競技体験（通院）



参加者の身体状況に応じた車椅子の調整（体育館）



義肢装具士によるスポーツ用義足の適合・評価（陸上競技場）

- ① 参加者は障害者スポーツへの興味を示し、体験による高い満足度を示しており、継続的な参加を希望していた。
- ② 継続的に障害者スポーツに参加している者は、障害者スポーツを始めるきっかけが、医療従事者のすすめであると回答している（約60%）。
- ③ 医療従事者は、障害者スポーツ競技を知っているが、競技の体験経験は少ない（参加した医療従事者の約20%が、今回の体験が初めてだったと回答）。

障害者スポーツの体験は、障害の有無に限らず、その楽しさを知り、喜びを感じ、共感する場の提供に繋がっている。

医療従事者の体験会参加は、医療従事者に障害者スポーツの魅力伝えるだけでなく、障害者に障害者スポーツへの参加を促すきっかけに繋がる。

障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用推進事業）への参加により、地域に根付いたリハビリテーション病院は、障害者スポーツの活動拠点として障害者スポーツの体験や参加のきっかけを提供するだけでなく、そのきっかけとなる情報の収集や発信、そして継続的な参加を支援する拠点となった。

今後は、地域で活躍する専門職種や競技団体との連携により、障害者スポーツを支える人材の拡大や障害者スポーツの新たな拠点の構築へ繋げ、障害者スポーツの普及に努める。